

①森高校生におけるインターンシップ事業

事業目的

北海道立森高等学校が実施しているインターンシップで「植えて→育てて→伐って→使って→植える・・・」一連の作業工程の見学や体験実習を実施する。また、住生活デザイン（週1回・2コマ）授業を受け持っており、年間を通じて林業・木材産業に関わる座学と体験実習を実施する。

事業概要（主な取組）

①林業体験（植樹～保育～間伐体験）

町有林事業で実施している「植栽」から「保育」事業の現場を見学及び体験をする。林業現場で行っている作業を知る。

②木材産業（製材～プレカット）

（株）ハルキの丸太から製材及びプレカットされるまでの流れを見学及び体験をする。現場の作業工程を見学しながら丸太がどのように加工され製品になっているのかを知る。

③特用林産物（木炭製造）

森町木炭製造生産組合の駒ヶ岳木炭の製造工程を見学する。原木の切り出しから丸太をカットして木炭がどのように製造されているかを知る。

④木育体験キット（木工作体験）

日ごろから使う身近な生活用品（箸、スプーン、ボックス）等の工作キットを体験する。木の香りや温もりを感じる木育を知る。

⑤自分オリジナル家具作り

これまで学んできたことを身じかに必要だと思った自分家具を制作する。

関連写真



木製デッキ制作（写真1）



製材工場見学（写真2）

②滞在型・定期型利用施設「connect∞もり」活用支援事業

事業目的

北海道立北の森づくり専門学院や大学生が、インターンシップ等で森町に滞在しながら活動できるよう、受入れ環境の整備と活動支援を行う。学生が町内の森林や地域資源を活用したフィールドワーク、ものづくり、調査・企画等に取り組む中で、地域の課題や魅力に触れ、社会参画や地域貢献を実践的に学ぶ機会を確保する。あわせて、学生と地域との継続的な関わりを促し、将来の担い手づくりや関係人口の拡大につながる活動の場として活用する。

事業概要（主な取組）

北海道立北の森づくり専門学院からの短期・長期インターンシップをはじめ、大学生の地域おこしインターン等の受入れを行い、滞在しながら学び・活動できる体制を整えます。滞在期間中は、町内の森林をフィールドとした体験・学習や、地域資源を活かしたものづくり等に取り組むことを想定し、活動が円滑に進むよう必要な環境整備や支援を行う。これらの取組を通じて、学生の学びの深化と地域との交流促進を図る。

関連写真



地域おこしインターンイベント活動（写真1）



地域おこしインターン工場見学（写真2）

③森町地域サポート部会による担い手育成支援事業

事業目的

令和2年度開校した北海道立北の森づくり専門学院の道南地域は森町が事務局を担っており、渡島・松山管内の調整と地域性を活かした実習プログラムの作成・提案・実践する役割を行っている。引き続き、林業・木材産業の新たな魅力を見出し、地域への関心や地元への定着・就業機会の充実を図る。

事業概要（主な取組）

（1）高校・大学生における担い手育成

森高校「住生活デザイン」（週1・2コマ）はデザイン、建築、製材、家具製作に至る一連の過程を学ぶ授業を部会委員が担当する。また、武蔵野美術大学の「産学連携」は森林資源が豊富な森町をフィールドに、現地滞在しながら部会委員がメンターとなりデザイン実習を行う。

（2）森町の林業・林産業の情報発信ツール

森高校「住生活デザイン」授業で体験した内容を冊子にまとめて、ターゲット世代である若年層向けに情報発信する。

関連写真



森高校1年生グループワーク（写真1）



森高校床貼り体験（写真2）

④木育推進事業プロジェクト

事業目的

子どもの成長において、0歳～7歳までの五感体験が人格形成に大きな影響を与えていることから、「出生証明書」と「積み木」の取組みは引き続き行いながら、次は幼・保から小中学校向けや各企業と連携した木育ワークショップを行い、森町の木育推進を図る。

事業概要（主な取組）

（1）道南スギの出生証明書（継続）

森町で生まれた子ども全員を対象に道南スギの板に子どもの写真をレーザー刻印した出生証明書をプレゼントしている。

（2）親から子どもへのウッド・ファースト・トイ（継続）

産まれてくる子どもへの最初のプレゼントとして道南スギの積み木を自分で作るワークショップを開催する。また、参加者同士のコミュニティを構築する。

（3）企業と連携した木育活動（継続）

ニッセイ緑の財団と協定した「ニッセイにっしんの森づくり活動」及び無印良品シエスタハコダテ・渡島総合振興局と連携している「花育・木育」事業による企業と連携した木育活動を行う。近隣市町に森町の木育を発信する。

（4）幼保・小中向け木育ワークショップ（新規）

地域おこし協力隊が開発した木育キットを幼保と小中学校で木育実践実習を行う。

関連写真



出生証明書（写真1）



ウッドファースト・トイ（写真2）



花育・木育（植樹活動）（写真3）



砂原中学校ベンチ作り（写真4）

⑤若年層の担い手育成による関係・定住人口創出支援事業

事業目的

若年層担い手育成施設（iroMori：イロモリ）は、産業体験などによる都市住民との交流や研修生等を受け入れるための活動拠点及び、地域の活性化と産業の振興を図ることを目的としている。地方から都会への流れを都会から地方へという流れを生み出すためにも、若年層の新たな人材育成拠点として活用する。

事業概要（主な取組）

（1）担い手育成

町は大学・専門学校と人材育成及び雇用の創出に関する協定を結び、長期インターンシップや地域おこしインターンの実践実習する活動拠点として活用する。

（2）地元材の新規用途開発

地元材を活用した新商品開発とブランド化、木育キットを開発する活動拠点。また、地元材を活用した桶・樽の調査や地域おこし協力隊が起業後の実態把握と自治体としてのサポート体制について先進地視察する。

（3）ものづくり教室

町民や各種団体向けにものづくり教室を開催して、日ごろから木工制作に触れる機会を醸成する。

関連写真



ものづくり教室（小学生）（写真1）



大学生インターン（写真2）



大学生インターン（写真3）



ものづくり教室（企業）（写真4）

⑥森林資源を活用したカーボンクレジット創出支援事業

事業目的

町は、ENEOS株式会社、日本生命保険相互会社と森林を活用した脱炭素社会の実現に向けた連携協定を締結し、J-クレジット認証に向けた取組みがスタートした。今後は現地調査によるモニタリング調査が主体となり、町有林の実態把握に務める。また、森林所有者意向調査のフォローアップを行う必要があることから、森林・林業の専門知識を有した「地域林政アドバイザー」を配置することで、幅広い林政業務に対応する。

事業概要（主な取組）

①モニタリング調査（プロット調査）

モニタリング調査：プロットでの調査項目は①樹種②林齢③立木数④胸高直径（毎木）⑤樹高（胸高直径に基づき選択された特定木 10 本程度）を現地調査する。

②J-クレジット認証・発行申請

有識者委員会に諮り、認証を受けた後、国がJ-クレジットを発行する。

③地域林政アドバイザー及び森林所有者の意向調査業務

町有林の管理方針、森林経営計画に係る助言等、森林所有者意向調査結果を踏まえて、ふるさと森林会議に出席して森林所有者の意向を確認する。

関連写真



連携協定（写真1）



森林所有者現地訪問（写真2）